

## 四條畷市福祉計画検討委員会議事録

開催日:令和4年3月24日

出席者:小寺委員長、三ツ川委員、山上委員、湯元委員、北井委員、阿瀬田委員、福井委員、福田委員、橋垣委員、平山委員、守屋委員、森田委員、穂園委員、前原議員、岸田議員

出席職員:松川部長、阪本次長、西岡課長、中西課長、菅井課長、西條上席主幹、北村課長代理、寺本課長代理、松本主任、濱田、春名、能瀬

### 【事務局】

それでは、定刻になりましたので、只今から「四條畷市福祉計画検討委員会」を開催させていただきます。わたくし、司会を務めさせていただきます福祉政策課の松本と申します。よろしくお願いいたします。開催に先立ちまして、健康福祉部長の松川よりご挨拶申し上げます。

### 【松川部長挨拶】

皆様こんにちは。健康福祉部長の松川でございます。会議の開催に当たりまして一言ご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス対策の「まん延防止等重点措置」が、大阪府では3月21日をもって解除され、今回、本委員会を開催することとなりましたが、まだまだ安心できる状況ではございませんので、引き続き感染拡大防止にご協力をお願いいたします。

委員の皆様には本日、御出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から本市の健康福祉行政に多大なご協力をいただいておりますことに、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げる次第でございます。

本日ご審議いただく案件は「なわてみんなの福祉プラン」及び「なわて障がい者プラン・障がい福祉計画等」そして「なわて高齢者プラン」に基づく今年度の取組みの進捗となっております。各計画とも本市の重要な計画となっておりますので、厳正かつ活発な審議が行われることを期待しております。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響が今も続いておりますので、健康には十分お気を付けていただきますようお願い申し上げますとともに、今後の本市健康福祉行政の推進と本委員会の運営についてのご協力を重ねてお願い申し上げます。簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

### 【事務局】

続きまして、本日の会議の成立について、報告させていただきます。本日は福祉計画検討委員会委員18名(21名中障がい者プランの3名除く)中11名が出席でございます。四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条第2項の規定により、過半数のご出席をいただいておりますので、会議は成立することを報告いたします。

続きまして、事務局職員を紹介させていただきます。健康福祉部長の松川です。健康福祉部次長兼高齢福祉課長の阪本です。健康福祉部次長兼保健センター所長の豊留です。障がい福祉課長の西岡です。障がい福祉課課長代理の寺本です。障がい福祉課職員の春名です。同じく能瀬です。子ども政策課長の中西です。福祉政策課長の菅井です。健康福祉部上席主幹(健康寿命延伸担当)の西條です。どうぞよろしくお願いいたします。

恐れ入りますが、部長の松川につきましてはこの後、他の公務がございますので、ここで退席させていただきますことをご容赦願います。

それでは、これ以降の議事につきましては、議長の小寺委員長にお願いいたします。

**【小寺委員長】**

皆さんこんにちは。先ほど部長の挨拶にもあったように、「まん延防止等重点措置」が解除になりましたが、感染者の数がそれほど減っているというわけではないので、できるだけこの会議に関しても、感染防止にご協力をお願いいたします。

それでは、次第に沿って議事を進めさせていただきます。案件3の会議の公開について始めたいと思います。これにつきまして事務局から説明をお願いいたします。

**【事務局】**

会議の公開の指針となります本市の「審議会等の会議の公開等に関する指針」につきましてご説明申し上げます。本指針では、法律や条例、要綱等により設置されました審議会等の会議について、原則として公開するものとしております。

本会議は四條畷市福祉計画検討委員会条例に定めるものであり、会議を公開にすべきであると考えております。

また、本委員会の内容をできるだけ開示することも必要と捉えておりますことから、本委員会終了後は、議事録を市のホームページに公開したいと考えております。なお、議事録の作成にあたっては委員長に一任いただきたいのですがよろしいでしょうか。

**【小寺委員長】**

いかがでしょうか。今の説明のとおり本委員会の会議を公開と決定してよろしいでしょうか。また議事録の確認を私に一任していただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

ありがとうございます。会議は公開と決定いたします。また、本委員会終了後、情報公開に努めさせていただきますこととします。

それでは、本日の議題となります案件4に移ります。本日審議いただく案件は、「なわてみんなの福祉プラン」および「なわて障がい者プラン・障がい福祉計画等」、「なわて高齢者プラン」それに基づく今年度の取組みの進捗となります。それぞれをご審議いただくこととなりますが、限られた時間のなかでということになりますので、よろしくをお願いいたします。それでは、「なわてみんなの福祉プラン」の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。

**【福祉政策課】**

早速ですが、事前に送付させていただきました資料に基づき説明させていただきます。1ページ目をご覧ください。

計画の基本目標1.「地域福祉を支える人づくり ～個々の意識向上～」でございます。

①「地域の支え合いの必要性を感じる人の増加」でございますが、小地域ネットワークの参加者数は、グラフのとおり平成30年度 6,535 人、令和元年度 7,026 人、令和2年度は 1,312 人となっており、コロナ禍の中で令和2年度は小地域ネットワーク活動の参加者が大幅に減少しています。

次に2ページをお開きください。

②「ボランティア活動に参加したい人の増加」でございますが、ボランティア保険加入者数は、グラフのとおり、令和元年度 6,052 人、令和2年度 2,030 人、令和3年度(12月まで)984 人となっており、コロナ禍の中、行事縮小等により令和3年度(12月まで)はボランティア保険の加

入者が大幅に減少しています。  
次に4ページをお開きください。

2 人材の養成 (1)福祉人材の確保・育成ですが、今年度の取組みといたしましては、民生委員・児童委員活動につきましては、日々の業務に加え、ひとり暮らしの高齢者等が自宅で安心して生活できるよう、3年に一度の在宅高齢者実態調査を実施しました。日々の見守り活動や災害など緊急時の安否確認などを迅速に行うため、65歳以上の一人暮らしの方、70歳以上の方のみの高齢者世帯のご自宅を地域の民生委員が一斉に訪問し、世帯の状況や健康状態等について聞き取り調査を行いました。また、この調査の実施に伴い、市の事業である「ひとり暮らし高齢者等緊急連絡カード」の配布にもご協力いただきました。

コロナ禍の中、福祉の最前線として感染予防対策を徹底しながら、4435人の聞き取り調査を行いました。(令和3年11月~令和4年2月)。また、周知啓発活動については引き続き、市ホームページや広報誌を主として発信しました。ボランティア団体活動に関する情報提供についても、市ホームページや広報誌のほか、SNS等の活用も検討しながら周知・啓発に努めていきます。

次に6ページをお開きください。

基本目標2. 地域共生社会の仕組みづくり～「我が事・丸ごと」の地域づくりですが、「④ボランティア活動の経験がある人の増加」について社会福祉協議会のボランティアグループの会員数は、グラフのとおり、令和元年度260人、令和2年度は272人、令和3年度(12月まで)は258人でコロナ禍であってもほぼ横ばい傾向にあります。

次に、7ページをお開きください。

「(2)地域の多様な活動の促進」につきましては福祉基金助成金については、4月広報誌や市ホームページを通して5月から申請受付を行い、8団体から8事業の申請がありました。また、助成金交付の適否等を審査する福祉基金事業運営委員会を7月に開いたうえで、総額1,527,640円を交付決定額といたしました(残額約47万円が生じたため、あらためて8月広報誌と市ホームページに掲載のうえ後期の申請受付を行い、1団体から1事業の申請がありました。また、福祉基金事業運営委員会を11月に開いたうえで、64,800円を交付決定額といたしました。

続きまして、9ページをお開きください。

2「丸ごと」受け止める仕組みづくり、(1)「協働による包括的な支援体制の整備」ですが、地域生活での課題を「丸ごと」受け止める仕組みづくりとして、生活困窮者及び生活困窮に陥るおそれのある者に対する適切な支援を図るため、関係機関を横につないでいく会議組織とする四條畷市地域生活困窮丸ごと支援会議を、令和3年度8月31日は新規案件1件(8050問題)、継続案件5件(ごみ屋敷問題、騒音問題、アルコール依存症等)について会議を開きました。2回目は、令和4年2月22日、新規案件2件(精神障がい者市役所迷惑行為、ごみ屋敷問題)、継続案件が6件で実施しました。

続きまして、10ページをお開き願います。

基本目標3. 安心して暮らせる社会環境づくり～誰もが住みやすいまちづくり～の「⑦地域への情報提供に同意する避難行動要支援者の割合の増加」について、避難行動要支援者名簿数は、グラフのとおり令和元年度750人、令和2年度761人、令和3年度(12月まで)799人と年々増加傾向にあります。

次に、13ページをお開きください。

基本目標4. 適切な支援につなぐ仕組みづくり～誰もが自立して暮らせるまちづくり～で、「⑩自殺者数(5年間の平均)の減少」で、グラフのとおり平成29年5人、平成30年7人、令和元年9人、令和2年8人、令和3年度3人(暫定値)で、自殺者数の5年間の平均は、6.4 人でした。平成29年度現状値 8.2 人より1.8 人減少しています。

次に、14ページをお開きください。

さまざまな地域課題への対応について。

「(2)生活困窮者、就労が困難な方への支援の充実」で、なわて生活サポート相談窓口(社会福祉協議会に委託)については、生活困窮者からの多様で複合的な問題について相談に応じるとともに、新型コロナの影響により新たな支援について適切な情報提供および支援を行いました。(新規相談受付件数308件:令和3年4月～令和4年1月)新型コロナの影響による生活福祉資金(特例貸付)の社会福祉協議会での今年度の面談件数は、令和4年1月末現在で554件となっています。また、就労準備支援事業(社会福祉協議会に委託)についても、雇用による就業が著しく困難な生活困窮者や生活保護受給者に対し、一般就労に向けた準備としての必要な知識及び能力の形成からの支援を計画的に実施し自立の促進に努めます。(新規支援者数 9 件:令和3年4月～令和4年1月)

令和3年7月から生活困窮者自立支援法に基づき、家計に関する課題を「見える化」し、相談者と話し合いをしながら、収支のバランスを取って自立した生活を送れるよう取り組んでいく家計改善支援事業および新型コロナウイルス感染症の長期化に伴い、社会福祉協議会が実施する総合支援資金の再貸付を終了した、または再貸付を不承認とされた等の事情で、これ以上貸付を利用できない世帯を対象に自立支援につなげるために新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金を支給しました。(延べ支給件数:277件令和3年7月～令和4年1月)無料職業紹介所についても働く意欲がありながら就労が困難な人(障がいがある・ひとり親・卒業後働いていない等)の相談を受けたうえで、本市独自の求人やハローワークの求人紹介を行っており、更なる求職者が増えるよう事業の周知に努めていきます。(新規採用者数19名)

住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金(10万円/1世帯)の確認書を令和4年2月15日に、約 6200 世帯に郵送しました。

次に、16ページの「(3)その他の支援が必要な人への対応」で

地域における高齢者、障がい者、ひとり親家庭などの要援護者等に対する見守り、発見、相談から適切なサービスへの「つなぎ」が機能する体制づくりを推進するため、社会福祉協議会にCSW(コミュニティソーシャルワーカー)の配置を委託したうえで、いきいきネット相談支援センターを運営しています。(新規相談件数 84 件、令和3年4月～令和4年1月 中地区(川崎・塚米・楠公・雁屋・江瀬美町・中野本町・西中野・東中野・中野新町・美田町・府営清滝・砂 61 件)、西地区(北出町・二丁通町・蔀屋 14件) 東地区(滝木間・畑中・清滝・逢阪・岡山・上田原・下田原・緑風台・田原台・さつきヶ丘 9 件)また、新型コロナの影響で新たな生活困窮等の相談の増加等に対応するため、住居確保給付金の要件緩和等の情報提供と適切な支援等を行います。令和4年2月末現在の今年度の住居確保給付金の支給件数は、8件となっています。

次に18ページをお開きください。

#### (1)自殺防止対策の推進

自殺対策予防の取組みとして、5月中旬に小・中学生向けに子どもの悩み相談(電話番号案内)チラシを作成し、各学校で配付しました。

また、令和4年3月17日「死にたい」の声を聴く～ひきこもり当事者団体の実践から～というテーマで

研修会を開催。隔週毎に、関係諸機関が実施する心の悩みに関する電話相談窓口を案内する記事について、市ホームページの新着欄に掲載するなど、引き続き、子どもから高齢者に至るまで自殺予防に向けた周知・啓発に努めるため、他市の好事例なども参考にしながら情報発信を行っていきます。

#### 【報告者交代※健康寿命の延伸西條上席報告】

最後に、20ページをお開き願います。

健康寿命の延伸につきまして、市民から公募した「健康寿命延伸推進員」の協力を得て、身近な場所での運動のため、ウォーキングマップ(なわてくマップ忍ヶ丘駅周辺版)の初級、中級コースを作成し、庁内関係機関や忍ヶ丘駅、四条駅、四條駅イオンなどに配置しました。

啓発事業として、11月には、健康寿命延伸啓発イベント(健康寿命延伸のすすめ)を開催し、「明日からできる人生100年時代の健康づくり」と題した講演会や健康測定会に200人近くの参加がありました。また、様々な運動の機会の紹介として、今年2月に講演会「ノルディックウォーク講習会」の開催を行いました。

コロナ禍の運動不足解消のため配信している「なわてストレッチ」の動画は、2年足らずで5万回以上の再生となっています。また、健康寿命に関する情報についても健康寿命延伸サイトの更新を行っています。身近でできる運動の啓発のために掲示板にチラシを掲示した「掲示板ウォーキング」も合わせて2回行いました。

以上を持ちまして、簡単ではございますが、福祉政策課で今年度取り組みます事業の報告とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【小寺委員長】

ただ今、事務局からの説明がありました。この件について、ご意見・ご質問等がございましたらお願いします。

#### 【山上委員】

具体的な活動内容がわからないため検討のしようがない。わかりやすく示してもらいたい。また市民と社協、市の取り組みの関連を示してもらいたいです。

#### 【事務局】

具体的な取り組みとしては、配布している資料の3ページをご覧ください。3ページの「今年度の取り組み」という部分で具体的な取り組みを明示しております。市民、社会福祉協議会、市の関連性という部分では3ページの表の取り組みへの関連という部分に記載しております。市民に関しては個々の取り組み、社会福祉協議会と市の関連性については、両輪の取り組みとして市の地域福祉計画と社協が策定している地域福祉活動計画の両方の計画性を結び合わせることで関連性をとっているところです。

#### 【山上委員】

資料の4ページの「今年度の取組み実績」に「地区福祉団体の先進事例や好事例を把握した上で…」と書かれているがどういう事例を把握されているのか、またどういった団体に発信しているのか。情報を発信しているのは自治会かネットワークなのか団体、個人なのかかわからない。どういう事例を把握し、発信しているのか教えてもらいたいです。

#### 【事務局】

すべては難しいと思いますが、良い事例を今後掲載していきます。

#### 【北井委員】

4 ページですが、まず今年度の取り組み実績で民生委員・児童委員の活動が記載されているが、内容的に福祉人材の確保・育成の枠の中にこの記載があるのがあるのはおかしいと感じる。実績に対し、周知啓発活動について具体的にしっかり記述するべきだと思います。

「広報なわて」で 10 月に高齢者緊急連絡カード事業、高齢者調査しますよ、と書かれているが今度のはしめくりであり、どうするのか。これからの話なのでしてもらったら良いと思います。

具体的な話で 5 月に民生委員の日に民生委員と市長との対話会を予定しており広報に載せていただくことになっている。昨年もしたが福祉政策課から「いいね」「だめだね」といった意見がなかった。貪欲に取り組んでいただけたらと思います。

#### 【事務局】

民生委員、昨年6月に初めて座談会を実施。一定の協議を進めていけたら・・・という会話の中、今年の12月に民生委員の改選を控えており、現在は6名欠員が発生している状況である。行政として何としても欠員を防ぎたいという思いの中で、民生委員の活動を PR していくことが重要と考えている。今後とも民生委員、児童委員協議会の皆様と協議を重ねながら進めたいと思っております。よろしくお願いいたします。

#### 【橋垣委員】

民生委員児童委員という民生の活動ではなく、児童委員というかたちもお年寄りの活動を書かれているが一応主任児童委員とうかたちでは児童についての活動もやっていますのでそれも打ち上げていただきたいと思います。一応子供さんについて主任児童委員の活動も行っているのもそれもちよっと一言でもいいので活動していますというのを上げていただきたいと思います。

#### 【事務局】

主任児童委員について、今年新たな改選がある。民生委員、児童委員合わせて周知させていただきます。よろしくお願いいたします。

#### 【山上委員】

今の市の取り組み方について自治会、各ネットワーク、各団体の意見が出ている。地域福祉という裾野が広いと、関係性の調整、取り組み、地域の取り組みや現状を積極的に把握して調整してもらいたいと思います。

#### 【小寺委員長】

様々な意見が出たが、9ページの地域困窮丸ごと支援会議。縦割りをなくして知恵を出し合っって様々な問題に取り組んでいる、というのはどこの市もできていない。進んだ取り組み。発展させてほしい。これを機会に広げていく取り組みが必要であると思います。

#### 【三ツ川委員】

四條畷市は東部地域、西部地域それぞれ特色があり問題点がある。市は小地域ネットワークの予算をだしてプランの事業計画をもらっている。それらの細かいものが集約されて区長会の中で共有されている。そういうものがほしい。そうしないと面の話と点を考えていかないとなかなか話が進まない。私も15年間区長をやっていたが、22町会あり全部違う。町会の中に小地域ネットワークがあり、町会長が民生委員や児童委員を決めて管理している。区長会の中で話し合っって様々な問題点があるとは思いますが、そういうものが我々にはわからない。あくまで結果の報告。上がってくる問題点を出してくれたらもっと検討できるのではないかと思います。

#### 【山上委員】

民生委員はよくやっている。活動の内容を上げると民生委員にやりがいが出てくる。地域活動もやりがいがないと難しい。はだで感じるようなことをするのが行政のバックアップ。行政として、守ってあげる。市民に地域ネットワーク、各種団体、自治体の活動報告を公表することで、やりがいにつながる。広報誌に載せているはだめ、自治会を通して個々の市民に伝えていく仕組みを構築してほしい。それがあまりできていないのが残念だと感じます。

【小寺委員長】

他にご意見等ございませんか、無いようでございますので、これで「なわてみんなの福祉プラン」の進捗状況についての審議は終了させていただきます。